

大鹿村中央構造線博物館たより 120号



2019年5月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

塩の里発着の徒歩観察コース作成！

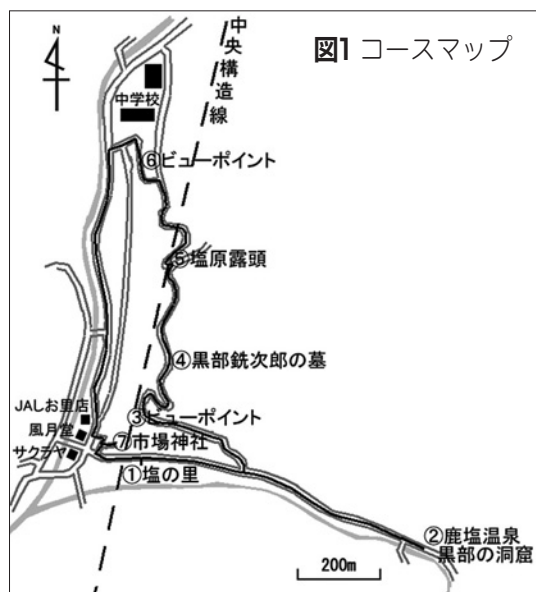


図1 コースマップ

博物館たより 3月号に続く徒歩観察コース第二弾ということで、塩の里発着の1時間程度の徒歩観察コースマップを作成しました。4月から5月初めにかけての時期には、あちこちに咲き乱れる桜や花桃を眺めながら歩くことができると思いますが、この「博物館たより」が配布される頃には、残念ながら間に合わなそうです。しかしながら、新緑の中を歩くのも気持ちのいいはずですよ。

発着地の塩の里(写真1, 地点①)は、中央構造線よりわずかに内帯側に位置しています。まずは、鹿塩温泉を目指して東に向かいます。鹿塩温泉の2軒の旅館(写真2, 地点②)の前の赤い橋のあたりで川底を覗くと、薄い板を重ねたような見た目の緑色片岩や、黒色片岩が見えます(写真3)。道路の反対側には、明治時代に黒部銑次郎という人

が、岩塩を探して坑道を掘った跡があります(写真4, 地点②, 2019年4月現在、電灯が故障中のため、立ち入り禁止となっています)。残念ながら、岩塩は見つかりませんでしたが、黒部銑次郎は、製塩と鉱泉浴場の営業をはじめました。



写真1 塩の里(地点①)



写真2 鹿塩温泉(地点②)



写真3 鹿塩温泉前の河床に結晶片岩が露出している



写真4 黒部の洞窟入り口(地点②)

次に、来た道を少し戻って、塩川沿いの道路から脇に入る道を登っていきます。大きく右へカーブするところで左手を眺めてみると、眼下に、出発地点の塩の里が見えます。そして、谷を挟んで向こう側の斜面を見ると、城山の断層鞍部が見えます(写真5, 地点③)。中央構造線は、この馬の鞍のような凹んだ地形のところを通っています。

カーブを曲がると、中央構造線の内帯側に立地する数少ない集落の一つである西集落が見えます(写真6)。さらに道を進むと、斜面の上手にお墓がぽつぽつと点在しています。この一角に黒部銑次郎の墓があります(写真7, 地点④)。



写真5 谷底に塩の里が見える(地点③)



写真6 伊那山地の麓に立地する西集落



写真7 黒部銃次郎の墓(地点④)



写真8 中峰集落への道との合流点

塩原の集落の中を通過、国道に向かって下っていくと(地点⑥)、鹿塩川の向こう側に、内帯側のマイロナイトの白い崖が見えます(写真10)。マイロナイトは、断層近傍の地下深いところで、断層がずれる力を受け、引き伸ばされるように変形した岩石です。明治時代、まだ日本でマイロナイトという岩石の存在が知られていなかった頃に、地質学者原田豊吉は、この岩石を、大鹿村鹿塩しおの地名をとって「鹿塩片麻岩」と名づけました。その後、この岩石は、片麻岩ではなくマイロナイトであると判明したため、現在では「鹿塩マイロナイト」と呼ばれています。



写真11 国道152号線から見える断層鞍部の連なり



写真12 市場神社

さらに進むと、中峰集落へ続く道と合流しますので(写真8)、左手前方向に進みます。合流点からすぐの最初のカーブのところが中央構造線の通っているところです(写真9, 地点⑤)。白黒の写真では全くわかりませんが、現地をよく見てみると、土の色が左右で少し違ってきます。



写真9 この崖を中央構造線が横切っている(地点⑤)



写真10 マイロナイトの白い急崖(地点⑥より撮影)

国道152号線を南下すると、城山、河合、居森山の断層鞍部(写真11の矢印箇所)と断層丘陵が連続しているのが見えます。中央構造線は、ほぼ鹿塩川に沿って通っていますが、小渋川と合流する居森山のあたりでは、鹿塩川の流路がだいぶ西寄りに向きを変えています。

最後に市場神社に寄ります(写真12, 地点⑦)。ここには江戸時代から続く大鹿歌舞伎の舞台があります。現在も、毎年10月第3週に、大鹿歌舞伎秋の定期公演が開催されます。

以上、白黒写真ではわかりにくい部分も多いので、カラー写真が見てみたい方は、是非、博物館ホームページの方をご覧ください
(URL:<https://mtlmuse.com/mtl/tourcourse/sh-ionosato/>)。

(宮崎)